



令和3年4月21日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」 令和3年度採択機関の決定について

JST（理事長 濱口 道成）は、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」における令和3年度採択機関を決定しました（別紙1）。

第5期科学技術基本計画において、次代を担う女性が科学技術イノベーションに関連して将来活躍できるよう、女子中高生やその保護者への科学技術系の進路に対する興味関心や理解を深める取り組みを推進するとともに、関係府省や産業界、学界、民間団体など産学官の連携を強化し、理工系分野での女性の活躍に関する社会一般からの理解の獲得を促進することとされ、3月26日閣議決定の第6期科学技術・イノベーション基本計画においても、その拡充を図るとされています。また、第5次男女共同参画基本計画でも、科学技術に興味を持つ女子生徒を増やし、理工系分野への進路選択を支援することが基本方針とされています。

女子中高生の理系進路選択支援プログラムは、これらを踏まえ、女子中高生の理系分野に対する興味や関心を高め、理系分野へ進むことを志すためのさまざまな取り組みを支援します（1件当たりの支援費：上限300万円／年、支援期間：2年）。

本年度の公募は、令和3年1月19日（火）から2月26日（金）の期間に行い、14件の応募がありました。その後、外部有識者で構成される委員会（別紙2）にて審査し、その結果をもとに5件の機関を決定しました。これにより、令和3年度の実施機関は17拠点となります。

なお、事業の詳細については下記のホームページを参照してください。

ホームページURL：<https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/>

<添付資料>

別紙1：女子中高生の理系進路選択支援プログラム 令和3年度採択機関一覧

別紙2：女子中高生の理系進路選択支援プログラム推進委員会 委員一覧

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 理数学習推進部 能力伸長グループ

〒332-0012 埼玉県川口市本町4丁目1-8 川口センタービル

小泉 輝武（コイズミ テルタケ）

Tel：048-226-5671 Fax：048-226-5684

E-mail：jyoshi-koubo@jst.go.jp

**女子中高生の理系進路選択支援プログラム
令和3年度採択機関一覧**

実施機関名 「企画名」	概要
<p style="text-align: center;">函館工業高等 専門学校</p> <p>「はこだてプライドを 育む！ ポストコロナ時代の 理系進路選択プロジ ェクト」</p>	<p>本企画は、ポストコロナ+G I G Aスクール推進環境を背景としたプログラムである。「デジタル・オンライン」と「現地・現場」をハイブリッドし、女性エンジニアのキャリアへの関心を深めさせる2つのステージからなる。</p> <p>1つ目のステージでは広く理系への興味を啓発することを目的とし、STEAMと企業活動、SDGsとの関連調査、並びに中学校教員や保護者も加わるワークショップや体験学習活動を中心に行う。</p> <p>2つ目の実践的なステージでは、専門分野を生かして輝く女性エンジニアの活動調査とデジタルカタログ作成などを実践する。デジタルカタログのテーマは「この企業は函館の自慢か？そこは私も輝けるか？」であり、いわば「はこだてプライド企業」カタログである。作成に当たって調査すべき項目は中学生と女子学生が決め、取材には360度カメラを活用したバーチャルリアリティー技術も併用し、ポストコロナ時代の中学校におけるキャリア教育に活用可能とする。</p>
<p style="text-align: center;">埼玉大学</p> <p>「彩の国で育もう、 理工系女子の未来 を！ 彩の国から変えよう、 理工系の未来を！」</p>	<p>本企画は、埼玉県内を中心に、理工系に関心を持つ機会が少ない女子中高生、理工系に関心を持ち職業につなげようとする女子中高生、そして彼女らの進路に影響を及ぼす教員と保護者を対象に、女子中高生たちが理工系に進んでいくことをエンカレッジするプログラムを提供する。</p> <p>理工系への関心を喚起するプログラムは主に中学生を対象とし、自然科学の面白さを伝えることを目的とする。理工系に関心を持つ女子中高生には、進路を確定する上で強い動機付けとなる最先端の理工学分野の研究体験を提供し、それぞれ「出前型プログラム（オンラインを含む）」の形式で実施する。保護者には、中高生対象のプログラムを共に体験することを含め、理工系女子の職業選択を含めた将来イメージを提示することで理工系へ進ませることへの不安を払拭することを狙う。中高教員には、理工系女子の将来的な広がりについて自信を持って進路選択を支援する情報提供のためのプログラムを実施する。</p>
<p style="text-align: center;">お茶の水女子大学</p> <p>「理系フロントランナ ーへの挑戦プログラ ム」</p>	<p>本企画は、グローバルな女性理系人材の重要性、ダイバーシティを尊重する現代社会に必要とされる広い視野、必要性が高まる数理データサイエンスへの理解促進を目的とし、女子中高生の理系への進路選択を支援する。社会における理系の高度専門職業人のニーズに加え、「起業」というこれまでアピールされていなかった選択肢を女子中高生、保護者、教員に理解させる取り組みを行う。お茶の水女子大学の在學生と卒業生が一体となることで、女性理系人材のシーズを発掘する。デジタルネイティブ世代である女子中高生に対応して、バーチャルリアリティーを用いて理系の魅力を発信する。女子中高生の理系分野への興味や関心を育み、理系への進路選択によって自己の未来を拓く意識を高め、理系フロントランナーを目指す意欲を培うことを最終目標とする。</p>

<p>東京薬科大学</p> <p>「TAMAリケジョ 育成 プログラム」</p>	<p>本企画は、多摩地域に根差し、理系が得意な女子生徒だけでなく、苦手としている女子生徒も、サイエンスの面白さや可能性を実感するプログラムを展開することにより、女子中高生全体の理系への興味や関心を高めていくことを目的としている。身近な問題や事象をテーマにした授業や実験など、社会との接続から理系の学びを導入し、SDGsへの理解も含め、さまざまな事象の解決に理系の知識や観点が役に立つことを実感する機会を提供する。なお、中学校、高等学校のニーズや社会状況に合わせてオンラインを活用する。</p>
<p>同志社大学</p> <p>「世界に羽ばたく 「科学するガールズ」 養成プログラム」</p>	<p>本企画は、女子中高生に物理をベースとした科学に親しむプログラムを、出前講義（導入）、キャンプ（実体験＋WEB）、ラボ（発展学習、実体験＋WEB）と段階的に提供し、理工系への進学を促進する。また関西文化学術研究都市推進機構と協働し、企業、立教大学、海外の大学と共に世界基準で情報を提供することにより、語学や留学に興味を持つ女子中高生にも確かな未来としての理工系女性像を与える。</p> <p>一部のプログラムをオンラインで提供し、地方も含む国内全域の中高生、教員や保護者を対象とする。各プログラムでは、女子大学（院）生のプロジェクトチームも企画や運営の一端を担い、自身のマネジメント能力を磨いて、エンジニア、研究者として活躍する基礎能力を身につける。</p>

女子中高生の理系進路選択支援プログラム推進委員会 委員一覧

役職	氏名	所属機関
委員長	加藤 昌子	北海道大学 大学院理学研究院化学部門 教授
委員	荒木 美菜子	埼玉県立戸田翔陽高等学校 教諭
	岡田 行雄	帝京大学 大学院教職研究科 客員教授
	木原 民	リコー ITソリューションズ株式会社 技術経営本部長（兼）イノベーション推進室長
	熊田 亜紀子	東京大学大学院 工学系研究科 教授
	矢吹 正徳	公益財団法人 理想教育財団 理事

(委員は五十音順)

(所属、役職は令和3年3月27日時点)

以上